

福井市自立支援協議会 こども部会 課題提起シート

課題	<p>通常校（普通級・通級・支援級）の「気になる子」（個別療育不要）の保護者が</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育て方について学ぶ場 ・ 相談する場 <p>が必要である。</p>
概要及び現状	<p>【概要】知的な遅れのない「気になる子」は就学後、障害児サービスを利用しない児もいる。医療に定期健診に来院される方は「育て方を知る」「困り感の相談をしたい」という要望が多い。</p> <p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外来受診時では時間が不足する。対応をすることで再診時間が延び、初診枠がとれない（初診待機時間の延長となる）という影響がでている。 ・ 学校では学期ごとの懇談会はあるが不十分である。（回数、内容共に） ・ 以前は親の会等に参加することで解決したこともあったと思われるが最近は親の会に参加する保護者が少ない。親の会の情報が不明。 <p>ペアレントメンターの活動「ちちははサポートクラブ」が今年度で終了予定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事例としての協働はあってもシステムとしての協働体制がとられていない。（学校教育課と市が委託した相談支援事業所と。）
改善の方針	<p>発達障害について知る機会を保護者向けに設ける</p> <p>親の会やペアレントメンターの活動の情報収集し保護者に周知する</p> <p>教育・福祉・医療のそれぞれの分野で保護者支援として企画していることを共有する。さらにできることを考える</p>
具体的な取組内容	<p>【取組内容】</p> <p>（教育）年に数回、各学校で保護者むけに啓発の講演会を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就学時健診時（数校実施⇒全校で開催とする） ・ PTA 講演会との協働開催 ・ スクールカウンセラーの活用の検討（個別対応以外は？） <p>（医療）講師を務める（小児科医会のこどものこころの委員会の事業の活用）</p> <p>（福祉）療育センター（リハイクの活用）事業所（利用者以外も）</p> <p>【理由】</p>
期待される効果	<p>【効果】</p> <p>保護者の困り感が減る⇒よりよい子育てにつながる</p> <p>発達障害の啓発となる</p> <p>相談が医療に集中しない</p> <p>個別対応⇒体制整備につながる</p>